

**製品名: MFN1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13849**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.12% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	85kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MFN1
別名	Mitofusin-1 (EC 3.6.5.-) (Fzo homolog) (Transmembrane GTPase MFN1)
遺伝子 ID	55669.0
SwissProt ID	Q8IWA4
免疫原	ヒト MFN1 由来の合成ペプチド AA 範囲: 163-213

**背景**

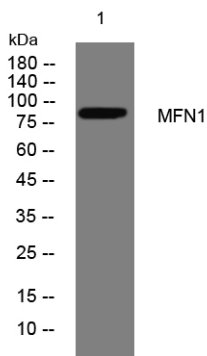
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ミトコンドリア融合のメディエーターである。このタンパク質とミトフシン 2 は、ショウジョウバエのタンパク質ファジーオニオン (Fzo) の相同遺伝子である。これらはミトコンドリア膜タンパク質であり、相互作

用することでミトコンドリアへの標的化を促進する。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性:  $GTP + H(2)O = GDP + \text{リン酸}$ 。、機能: ミトコンドリア融合を媒介する必須の膜貫通型 GTPase。ミトコンドリアの融合は多くの細胞種で起こり、融合と分裂のバランスをとるミトコンドリアの形態形成において重要なステップを構成する。MFN1 は細胞骨格とは独立して作用する。過剰発現はミトコンドリアネットワークの形成を誘導する。、類似性: ミトフューシンファミリーに属する。、サブユニット: MFN2 とホモ多量体およびヘテロ多量体を形成する。コイルドコイル領域を介して媒介されると考えられる多量体形成は、ミトコンドリア融合において重要な役割を果たす可能性がある (類似性に基づく)。高分子多タンパク質複合体に関与する。、組織特異性: 普遍的。腎臓と心臓でやや高いレベルで発現する。アイソフォーム 2 は、肺がんなどの一部の腫瘍で過剰発現する可能性がある。、

## 研究分野

神経科学、神経学プロセス、神経変性疾患、パーキンソン病、タグと細胞マーカー、細胞内マーカー、細胞小器官、ミトコンドリア、シグナル伝達、セカンドメッセンジャー、ヌクレオチドメッセンジャー、GTP、代謝、経路とプロセス、ミトコンドリア代謝、ミトコンドリアマーカー、マイトファジーの分裂と融合

## 画像データ



HCT116 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、MFN1 ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩